

事務事業評価シート 平成 30 年度事後評価・決算

令和 2 年 2 月 21 日時点

事務事業名		20500 公害対策事務費	予算科目	会計	款	項	目	所管課	環境課	担当班	環境政策班
① (新川の浄水と保を除く)		21	良好な生活環境の形成	根拠法令	環境基本法、水質汚濁防止法、騒音規制法等	4	1	5		☒ 主な事業	
② 住み良い住環境の確保		39	住み良い住環境の確保	戦略事業	184 公害対策事務費					☐ 国土強靱化地域計画	
③ 施策の展開				戦略事業						☐ 新市建設計画	
④ 施策の展開				戦略事業						☐ 定住自立圏構想	
				戦略事業						☐ 主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 年度～ 平成 年度まで	市内の環境調査として河川の水質、自動車騒音を測定している。また、各種公害法令、条例に則した許可や届出の受理事務を行っている。さらに、公害苦情に対応するため、騒音計や振動計を保有し、対応している。 環境審議会を開催し、条例の制定や改正等及び重要な公害苦情に対し諮問している。		
③事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④事務事業に関する課題・環境の変化	⑤事務事業に対する住民からの意見等	
環境汚染が幅広く問題視されるようになり、公害問題が取り沙汰されてきた。そこで、各種調査測定を行うとともに公害苦情などに対応している。環境省からの権限委譲に基づき平成26年度から自動車騒音の測定も行っている。	近年は、水質汚濁だけでなく、騒音・振動・悪臭をはじめ土壌についての公害問題が取り沙汰されている。このような多種多様となった公害問題に対応すべく環境審議会を開くなどして新たな問題に取り組んでいる。	水質浄化に関する意見要望やその他公害苦情が多数寄せられている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細 (30年度の決算)		単位:千円	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算)	30年度 (決算)	31年度 (予算)
1.報酬	0	環境審議会委員報酬	千円	54	174	54	0	216
2.委託料	1,066	河川及び事業所排水水質調査、自動車騒音調査、地質調査	千円	970	1,212	1,013	1,066	2,153
3.負担金	17	黒部川汚染防止対策協議会負担金	千円	16	16	16	17	17
4.その他	802	現場作業用消耗品購入費	千円	117	84	50	802	192
② 特定財源の内訳 (30年度の決算)		単位:千円	事業費計 (A)					
1.国庫支出金	0		千円	1,157	1,486	1,133	1,885	2,578
2.都道府県支出金	0		千円					
3.地方債	0		千円					
4.その他	180	小規模理立で事業許可等申請手数料	千円	150	250	260	180	200
			千円	1,007	1,236	873	1,705	2,378

前年度増減理由	備品(レベルレコーダー、ゼンリン)の購入のため
---------	-------------------------

従事職員数	常時 1 人	最大 5 人 × 1 日 = 延べ 5 人
-------	--------	-----------------------

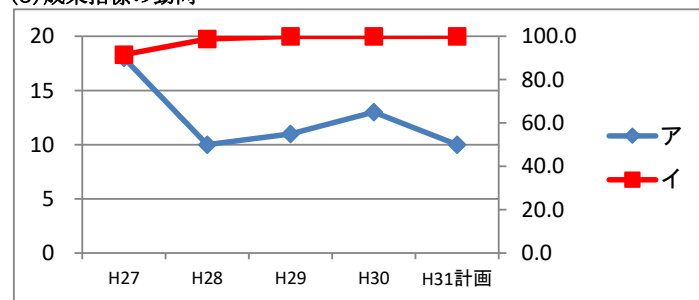
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	31年度 (計画)
	30年度実績 (30年度に行った主な活動)	ア 河川及び事業所排水調査箇所数	箇所	15	17	17	17	17
目的	② 対象・意図 (対象がどのような状態になるのか)	イ 自動車騒音常時監視調査箇所数	箇所	7	8	7	5	5
	対象意図: 生活環境 環境基準に対し状況が把握できる	④ 成果指標名	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	31年度 (計画)
対象意図	② 対象・意図 (対象がどのような状態になるのか)	ア 河川水質調査基準超過数 (新川の基準値との比較) (新川の環境基準:5mg/L)	箇所	18	10	11	13	10
	② 対象・意図 (対象がどのような状態になるのか)	イ 自動車騒音環境基準達成率	%	91.5	98.7	99.9	99.9	100.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

①成果優先度評価結果				②コスト削減優先度評価結果				
		成果向上余地			コスト比率			
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位1/3	中位1/3	上位1/3	
施策貢献度	大きい				評価結果	①		
	普通			⑦		②		
	小さい					③		
						④⑤		
					⑥			
					⑦⑧	(7)		
					⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	☒ 完了	☐ 順調	☒ 概ね順調	☐ 停滞	☐ 実施困難
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値減=成果向上	数値増=成果向上	比較
【コメント】 (低下の場合、その理由)	前年度調査した時の水量より、本年度調査時の水量が少なかったため。				
③ 今年度取組事項 (31年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容	今後の方向性	現状維持	見直し
例年通り	例年通り	例年通り	例年通り	例年通り	例年通り